



巻頭言：鳥取大学附属図書館医学部分館(医学図書館)の現状と将来	成瀬一郎	1
イギリスの図書館と図書館員	津村光洋	3
図書館に期待すること	牧嶋惇	6
図書館紹介：鳥取市立中央図書館	西尾肇	8
ミニ・シリーズ 情報検索コーナー ～「電子書籍」について～		11
附属図書館委員会委員名簿		13
トピックス		14



## 鳥取大学医学図書館の現在と将来

成瀬一郎

鳥取大学附属図書館医学部分館（以下医学図書館）は、昭和 24 年に鳥取大学が設置された時と同時に、鳥取大学附属中央図書館とともに設立されました。その母体になったのは、米子医科大学の図書館でした。その後、医学図書館は、昭和 46 年に新築され、昭和 55 年に増築されておりますが、すでに 40 年以上の歳月が過ぎ、老朽化が目立って参りました。医学図書館には、14 万 2 千冊の蔵書があり、医学図書館は、医学部の教育・研究に大きく貢献してまいりました。

大学図書館は、大学の教育・研究活動には欠かすことのできない機関です。図書館情報サービスの主たる目的は、利用者が必要とする資料情報を提供することにあります。近年の IT の進化に伴い、検索システムを使って電子ジャーナルを読む時代になり、必ずしも図書館に来なくても、研究室からアクセスして、読みたいジャーナルをダウンロードするようになって参りました。医学図書館では、海外ジャーナルやメディカルオンライン（国内誌）を主とした様々な情報を簡単迅速に入手できるよう改善に努めて参りましたし、今後もこの方針を継続して行きたいと考えております。その意味では、医学図書館は、医学部における学術情報の発信基地に変貌したと考えられます。このような変化に伴い、目的

とする資料を得るための検索方法やデータベースの活用方法などを広くお知らせするために、機会あるごとに、学生・教職員さらに学外の方々にも講習会などを開催しております。

一方、医学図書館の抱えるいくつかの課題もあります。自宅でなく図書館で勉強する学生が増え、図書館の勉強机のニーズが急激に増えて参りました。学生会や教職員の方々からは、閲覧・学習スペース（125 席）、パソコンスペース（20 席）の少なさに苦情が寄せられております。閲覧室と書架スペースが狭隘であることは充分承知しております。このことから、古い雑誌等は、集密書庫に入れ、閲覧室のスペースをできるだけ増やして参りました。また、予算に関しては、外国雑誌購入代金の年々の高騰、新刊ではあるが良い内容の重要な雑誌の発行の嵐に悩まされ、利用度の低い雑誌から順次、切り捨てざるをえない状況に陥っております。これは、利用頻度やアンケート調査を毎年のように行い、利用度の低い雑誌がターゲットになっております。しかし、医学部には、様々な分野で活躍される先生がみえるわけで、利用者が少数だからと言って切り捨てると、その分野自体を切り捨てることになりはしな



いかと危惧しております。

一般図書は、基本的には米子市立図書館から取り寄せ、医学図書館は、医学関連の書籍・雑誌に特化する方が合理的です。最近では、鳥取県内の大学・短大・高専の図書館や県立図書館、米子市立図書館、境港市民図書館、南部町立図書館などともネットワークを形成し、医学部図書館では補えない一般書の取り寄せサービスも実現しております。しかし、医学科 1 年が米子へ移動したこともあり、学生諸君から、一般書の充実を望む声が多く聞かれるようになりました。彼らの要望に応え、学生が欲しい一般書を揃えるための予算を計上し、ブックハンティングと称して、米子市今井ブックセンターの「本の学校」へ、学生と一緒に買い出しに行くシステムを作りました。

近年、図書館の役割に関して大きな転換が認められております。特に電子ジャーナルやデータベースの充実により、教員・研究者が、直接図書館に来る必要性が少なくなってきており、図書館は、前にも述べたように、学術情報の発信基地化しております。そのような機能を果たすには、総合メディア基盤センターとの連携が最重要課題となっており、現に、両職場の職員どうしの互助や緊密な交流もしております。医学図書館のなすべき任務は、電子ジャーナルやレファレンスサービスを充実し電子図書館的機能を発展させること、医学部の研究成果をフルテキストで公開するための「機関リポジトリ」を構築することなどであろうと考えます。

では、図書館のスペースは何に使うべ

きかと考えますと、利用者に憩いと癒しの空間を提供し、多くの学生や教職員、さらに地域の皆様も集まれる空間を構築したいとは考えますが、現実には、学生の学習スペースの拡大の方が優先度が高いと考えられます。また、開館時間の拡大の要求が多くあり、朝は、9:00 開館から 8:40 開館に早めました。閉館時間の延長は、人件費・光熱費の関係もあり、おいそれとは延長できない状況にあります。延長できるよう予算要求して行きたいと考えております。できうる範囲内で、利用者にとってゆとりのあるカンファタブルな空間を提供したいと考えております。

地域の皆様にも気楽に利用して頂き、主に医療情報を得て頂きたいと思っております。その意味もあって、地域貢献事業の予算を頂き、米子市立図書館、境港市民図書館、南部町立図書館と連携して、公開講座を開催し、広報活動も行っております。

インターネットから得られる情報は便利ですが、膨大であり、間違った情報や、惑わす情報も多く含まれています。このような誤りに落ち込まないためにも、医学図書館の存在意義があると考えています。医学図書館は、利用して頂いている学生・教職員や地域の皆様の意見を今まで以上に大切にして、現代の急激な IT 化の荒波にむやみに流されることなく、それでも、IT 化の流れに遅れることのないよう、将来を見据えて確固たる地位を護り続けたいと考えております。

(なるせ いちろう 医学図書館長、  
医学部保健学科教授)

## イギリスの図書館と図書館員

—平成 22 年度国立大学図書館協会海外派遣事業に参加して—

津村光洋

昨年 11 月 29 日から 12 月 7 日まで、標記の事業によりイギリスのグラスゴー・カレドニア大学、シェフィールド大学、オックスフォード大学、ブリティッシュ・ライブラリーの 4 機関の見学に行かせていただきました。とくに前の 2 機関は、いずれも最近 5 年以内に新しいインフォメーション・コモنزをオープンさせた大学で、その施設やサービスの調査が今回の派遣事業の主な目的でした。なお、広島大学図書館の和田由季さん、日野美穂さんと同行しました。

初日の夜、グラスゴー空港に到着した時点で、気温は日本よりも約 10 度低い 0 度前後、雪が積もっていたのに驚きました。後日聞いた話では当地でも 11 月に雪が降ることはほとんどなく、今年は異常気象とのことでした。

2 日目、グラスゴーの中心部にあるカレドニア大の図書館、ソルタイヤ・センターを訪問しました。5 年前にオープンしたこの施設は 7 階建ての図書館の建物全体がインフォメーション・コモنزになっています。サービス部門のマネージャー、ソーニャ・キャンベルさんに中を案内していただき、その後、館長さんをはじめ 4 人の女性職員の方々と職員用ラウンジでお茶を飲みながらお話を伺いました。オープン後も、毎年学生の利用調査を行って机や椅

子の配置をアレンジし直しているとのことでした。また、ソルタイヤ・センターを通じて大学全体のブランド化に貢献したいという言葉も印象に残りました。

3 日目にシェフィールドに移動、雪のため高速バスが目的地まで行けず、急遽鉄道に乗り換えてやっとのことで夜シェフィールドに到着しました。

翌朝、雪道を歩いてシェフィールド大学の図書館に行くと、玄関で職員のジル・ゴッドアルドさんが待っていてくれました。ジルさんは東アジア部門の女性ライブラリアンで、日本語にも堪能な方です。この日は大雪のため全学が休講となり、食堂なども閉店していましたが、24 時間開館のインフォメーション・コモنزだけは開いていて、中は集まった学生たちで溢れかえていました。この施設に計画段階から関わってこられたマルティン・レーヴィス館長に中を案内してもらいましたが、学生に長時間快適に利用してもらうための空間のデザインに徹底的にこだわり、成果をあげている印象を受けました。2 大学のインフォメーション・コモنزについては、後日『大学図書館研究』誌上でも詳しく報告をする予定です。

シェフィールド大はイギリスでも有数の日本関係コレクションを所蔵し、地下書庫で戦後占領期の資料のマイクロフィル

ムや、日本語雑誌のバックナンバーを見せていただきました。日本コレクションを担当するジルさんは、学生ときは政治学を専攻し、日本語や日本のことを勉強しはじめたのはその後だそうです。

欧米では図書館の職員は数年おきに頻繁にポストを変えてゆくというイメージがありましたが、ここでは長期にわたってこの大学に勤めている方が多いようでした。勤続 35 年というベテランの女性職員さんが、「昔は全部紙で仕事をしていただけ、今では (IT 化されて) すっかり様子が変わってしまったわ」と話されていたのが印象に残りました。日本のベテラン図書館員の方から同じような話を聞いたことを思い出しました。また、最近では学生との対面コミュニケーションの機会が減り、メールやブログでのやり取りが増えているとのことでした。

また、欧米では分野ごとのいわゆるサブジェクト・ライブラリアンが専門的な知識を駆使してサービスを行っているというので、その点にも関心がありました。シェフィールド大の場合、ファカルティ・リエゾン・チームという部署が教員と図書館の橋渡しの役割を果たしています。5 つの学部にはそれぞれ担当のリエゾン・ライブラリアンがおり、現在でもイギリスでは分野ごとのライブラリアンが重要な役割を果たしていることが伺われます。ホームページに一人ひとりのライブラリアンの写真とメールアドレス、内線番号などが紹介されているのも日本と大きく異なります。

私たちがこれからオックスフォード大とブリティッシュ・ライブラリーに行くと

聞いて、ジルさんは「それぞれの図書館の日本コレクションの担当者を知っているから、紹介してあげる」と早速メールを出してくれました。各図書館の日本関係コレクションの担当者の中に、このような個人的なネットワークがあるようです。

翌日鉄道でロンドンに移動すると、ようやく雪もなくなりました。さらに次の日、ロンドンから鉄道で片道 2 時間のオックスフォードを日帰りで訪れ、17 世紀の歴史的な建築である、オックスフォード大学ボードリアン図書館を見学しました。

最終日、ロンドン市内にあるイギリスの国立図書館、ブリティッシュ・ライブラリー (以下 BL) をたずねました。ここでは特に事前予約はせず、利用者として中を見学させてもらうつもりでしたが、現地に行ってから中に入るのが意外と難しいことがわかりました。というのも、BL は BL にしかない資料を見たい利用者だけが利用できる図書館であり、利用登録の際にも何の資料を閲覧したいのかを厳密に確認されるためです。幸い、2 階の利用登録の窓口に行って、施設を見学したいという趣旨を伝えたところ、利用登録した上で中に入っても良いとのことでした。自動車の免許証で住所確認し、専用のパソコンで自分で氏名等の情報を入力、窓口の小型カメラで写真を撮ってもらい、その場で顔写真入のプラスチックの利用者カードが発行されました。

さらに、ジルさんからメールを送っていたいただいた日本語部門の部長であるヘーミッシュ・トートさんとも会うことができ、お忙しいとのことでしたが、その場で簡単に内部の説明をしていただくことが

できました。この方も日本語が非常に達者な方でした。

BLには分野別に11の閲覧室があり、資料の利用は日本の国会図書館と同じく出納式です。建物は築10数年でまだ新しく、木を多用した閲覧室は明るく快適そうでした。

こうして山あり谷ありの9日間でしたが、三人がそれぞれの強味を発揮して、何とか当初の日程をこなすことができました。正直なところ、出張前は外国の図書館員はすごいという先入観を持っていましたが、実際に接してみると意外に実際にやっている業務は私たちと共通した部分が多く、彼らも近年の大きな環境の変化にとまどいながら、それでも前向きにそれに向き合っているという印象を受けました。

また、空いた時間にはグラスゴーやシェフィールドの市内を歩いて回り、立派な市庁舎やカテドラル（教会）、長い年月を経た美しい町並みに感激しました。ロンドンではトラファルガー広場やナショナル・ギャラリーに行きましたが、トラファルガー広場で、建物の合間にビッグ・ベン（国会議事堂の時計塔）を初めて見たときの感動は今でも忘れられません。

ところで、イギリスといえば食事がいまいちという話を聞きますが、今回は行ったレストラン（なぜかほとんどイタリア料理店）は、どこでも美味しく食事ができました。ホテルの朝食に毎日出てくるスクラン

ブルエッグとベークドビーンズも美味しく、くせになってしまいました。夜に同行のお二人と毎日食事をしながら何時間も図書館の話をして、親交を深めることができたのも貴重な時間でした。

今年の鳥取は例年になく大雪に見舞われていますが、月日が経つのは早いもので、イギリスで雪の中を歩き回った日々が、同じ冬とは思えないほど遠い昔のことに感じられます。最後になりましたが、こうした貴重な機会をつくっていただいた上司の皆様、また、出張中に業務のフォローをしていただき、事前事後の手続きでお世話になった職場の皆様、この場を借りて心よりお礼申し上げます。



グラスゴー・カレドニア大学  
ソルタイヤ・センター



シェフィールド大学  
インフォメーション・コモンズ



(つむら みつひろ 附属図書館司書)

## 図書館に期待すること

牧嶋 惇

図書館とはそもそも何なのか。広辞苑第五版によるとこうある。

としょ-かん【図書館】

(library) (明治中期の訳語。それまでズショカンといった) 図書・記録その他の資料を収集・整理・保管し、必要とする人の利用に供する施設。旧約、書籍館(しよじやくかん)。(広辞苑第五版岩波書店)

図書館というのは古来物理的存在である「本」を貸し出し、また閲覧する場であった。

だが、今は何でも電子化の時代。活字として出版される前のデータの形はなんだ。デジタルデータだ。即ち書籍全てのデータ化が簡単に行える。すると何ということだ。必要なデータはウェブ経由で全て手元に手に入る。図書館はいらなくなるのだ。借りに行かなくても、即座に我が手の中に入るのだから。未来の図書館はデータセンタ？大いに有り

うる。

ここで考える。図書館の本来の魅力は何か、と。本屋とも電子書籍とも異なる魅力は何か。

まず気兼ねなく手に取れることである。行けばいつでも気軽に本が読める。お金は要らない。要るのは図書館へ行く気力だけである。

何より手に持って読める。物理的に本をつかみ、好きなページへ一発で飛べる。斜め読みもざっと読みも自由自在。電子書籍ではこうは行かない。いちいちクリックだのタッチだ。その利便性で現書籍に敵う方法はない。

加えて、そこには人がいる。文字通りの人、司書さんがいる。本のプロフェッショナル、資料の相談やオススメの本などを気軽に聞ける。そこには一定のクオリティが確保されている。生身の図書館が、そこに存在する。

長々と図書館の存在意義について語ってしまった。ここまで考えて、図書館に希望することとはなんだろう。

まずは、これは利用者に対しても、ではあるのだが、有るべき物が有るべき所に有る、ということである。本が滅茶苦茶に本棚に押し込まれていたり、順番が規則通りでなかったりする上、酷い時になると全く関係ないところに本が積まれていたりする。いつでも必要なときに取り出せるように、元あった場所に整理整頓されて置いて（置かれて）欲しい。

二番目は、これは医学図書館特有かもしれないが、一般書の増量である。ここ数年で大幅に増加しているとはいえ、まだまだ少ないと思う。スペース・予算の問題もあるが、是非頑張ってもらいたい。

個人的には、図書館は図書館なりに精一杯頑張っていると思う。積極的に利用者の希望を実現している。

むしろ、必要とされるのは、利用者のマナー向上ではないだろうか。図書館内で携帯電話に飲食、席取りに談笑。本来の

図書館というのは、本の貸出閲覧のみ許される場であり、自習学習は言わば「やらせてもらっている」ということを忘れてはならない。騒ぐなど言語道断である。

図書館は何をする場所だろう。もう一度考え直して欲しい。要望するためには、そう、まず自分たちが図書館からの要求を飲むべきである。そうではなかろうか。

(まきしま じゅん 医学部医学科 2年)



鳥取大学医学図書館

シリーズ鳥取県内図書館の特徴・取り組み等の紹介、今回は、鳥取市立中央立図書館です。

## 地域に根ざし、暮らしに役立つ図書館をめざして

鳥取市立中央図書館 西尾 肇

### 1. 合併後の歩み

2004年(平成16年)11月1日、1市8町村の市町村合併により人口20万人の新・鳥取市が誕生しました。これに伴い、用瀬町立図書館(平成元年4月開館)は市の南部地域をサービスエリアとする地域館である「鳥取市立用瀬図書館」に、気高町立図書館(平成15年10月開館)は西部地域をサービスエリアとする「鳥取市立気高図書館」に生まれ変わりました。また、吉方温泉3丁目の鳥取市文化センター内にあった「鳥取市民図書館」(昭和57年開館)は「鳥取市立中央図書館」と改称し、さらに図書館のなかった6町村については基幹公民館(旧町村の中央公民館)の図書室をサービス拠点と位置付けることで、3館6室による鳥取市の図書館サービス網を構築しました。そして、237k㎡から765k㎡へと約3.2倍も拡大した広大な新市域への全域サービスを保障するため、中央図書館に3台、用瀬図書館・気高図書館に各1台の移動図書館車を整備して、約160か所のサービスステーション(駐車場)への巡回サービスも開始しました。

旧・鳥取市民図書館は3階建ての複合施設で延べ床面積2,141㎡、併設の多目的ホールを除くと1,917㎡の分館規模の図書館でした。合併当時の蔵書は21万冊を超え、収蔵能力の限界に達していました。そこで、2005年(平成17年)5月1日、旧ダイエーを改築した鳥取市役所駅南庁舎に移転することになりました。新装なった中央図書館は、2階に3,374㎡(14万冊収蔵可能)のメインフロア、1階に247㎡の移動図書館車用車庫、地下には974㎡の書庫(小・中学校、公民館を含む図書館サービス網全体の物流センター機能も持ち、約37万冊の資料を収蔵可能)を備え、延べ床面積は4,600㎡と、名実ともに「中央図書館」の機能を有する施設にリニューアルしました。

合併後の図書館サービスのもうひとつの課題が電算システムの統合でした。合併した8町村の中には、図書室業務が電算化されていない施設もありましたが、平成19年3月14日、図書館3館と中央公民館図書室6室のコンピュータシステムの統合が完成。インターネットを介して、市立図書館のシステム内のすべての蔵書約45万冊(現在は55万冊)が24時間、家庭や職場のパソコンからでも検索・予約でき、1枚の貸出カードでどこからでも借りられ、どこへでも返せるようになりました。さらに、予約された資料を身近なサービスポイントで受け取れるよう、図書館・図書室や小・中学校、大学等へも宅配便を使った搬送システムを整備。受け取り先に

は5台の移動図書館車のステーションも指定できるなど、物流体制も確保しました。「情報と物流の一致」という図書館サービスの大きな目標へ第1歩を踏み出すことができたのです。

## 2. 現状と課題

合併以来、利用は年々伸び続け、平成16年度に58万5千冊（3館6室の合計）だった年間個人貸出冊数は、平成21年度には86万4千冊と、1.5倍近く増加しました。このうち中央図書館の貸出は72万3千冊で全体の84%を占めます。また、インターネットによる予約も毎年伸び続け、平成16年度に3万件だった予約が、平成21年度には10万件を突破するなど、システム統合によるデータの一元化は着実に成果をあげています。

また、貸出冊数の伸びと同様、登録者も平成16年度の3万2千人から平成21年度には約5万人（3館6室の合計）と1.6倍増加しましたが、人口の25%に留まっています。同規模自治体の平均である45.9%（平成20年度統計）に比べると、まだまだすべての市民が図書館を身近に利用できる環境にあるとは言い難い実態を示しています。市民による「鳥取市図書館整備計画検討委員会」からも、今後、中央公民館図書室の図書館分室化や人口集中地域（湖山・末恒地区や若葉台地区）への分館整備を進め、市域全体に地域格差のない図書館サービス網を築いていくよう、提言をいただいています。

## 3. 鳥取大学附属図書館との連携

2005年（平成17年）9月30日、鳥取大学附属図書館及び鳥取環境大学情報メディアセンターとの間で図書館利用の相互協力に関する協定を締結しました。館種の違いを超え、地域の教育、学術及び文化の発展に資するため、資料の相互貸借や文献複写、講演会や公開展示等の連携・協力を約束し合ったものです。この協定にのっとり、市立図書館では鳥取大学の学生や教職員の皆さんが予約された資料を、市立図書館の搬送便によって附属図書館の窓口までお届けするサービスを始めました。また、2009年（平成21年）4月16日からは、移動図書館車「なかよし号」の大学構内への巡回サービスもスタートしました。

協定調印後の2005年10月29日（土）には、中央図書館を会場に、記念イベントとして「日本酒の魅力、地酒の魅力～文化に支えられた伝統とハイテク醸造技術～」と題したシンポジウムを開催しました。これは、当時、鳥取大学附属図書館の館長であった和泉好計先生（工学部生物応用工学科教授）が、研究室で自ら日本酒造り（！）もされるほど醸造学に造詣が深いと聞き及んで企画を立てたもので、和泉館長に基調提案をお願いし、パネルディスカッションでは県東部の蔵元6社の社長らが日本酒造りにかける熱い思いを語り合いました。さらに会場を移した2次会では、

蔵元の社長持参のとおきの地酒を参加者で味わうという特別企画もあって、大いに盛り上がりました。

この連携講座は市民にも大好評で、その後も、鳥取大学と鳥取環境大学から1年おきに講師を派遣していただいて、中央図書館を会場に継続しています。2007年度（平成19年度）には、11月23日に高阪一治教授（附属図書館長）による「図像表現と西洋美術の歴史～ことばと視覚表現～」、2009年度（平成21年度）には、11月14日に地域学部の高田建一准教授による「絵図・遺跡資料の新しい見方～歴史資料のデジタル化と利用～」と題した講演会を開催しました。

これからも、鳥取大学附属図書館と鳥取市立図書館の絆をますます強め、地域に根ざして暮らしに役立つ“知”の拠点として、図書館の連携を推進していきたいと思えます。



なかよし号 鳥取大学巡回（初回）



鳥取大学との協定調印式

（にしお はじめ 鳥取市立中央図書館長）

鳥取大学シンボルキャラクター<とりりん> ポーズ03

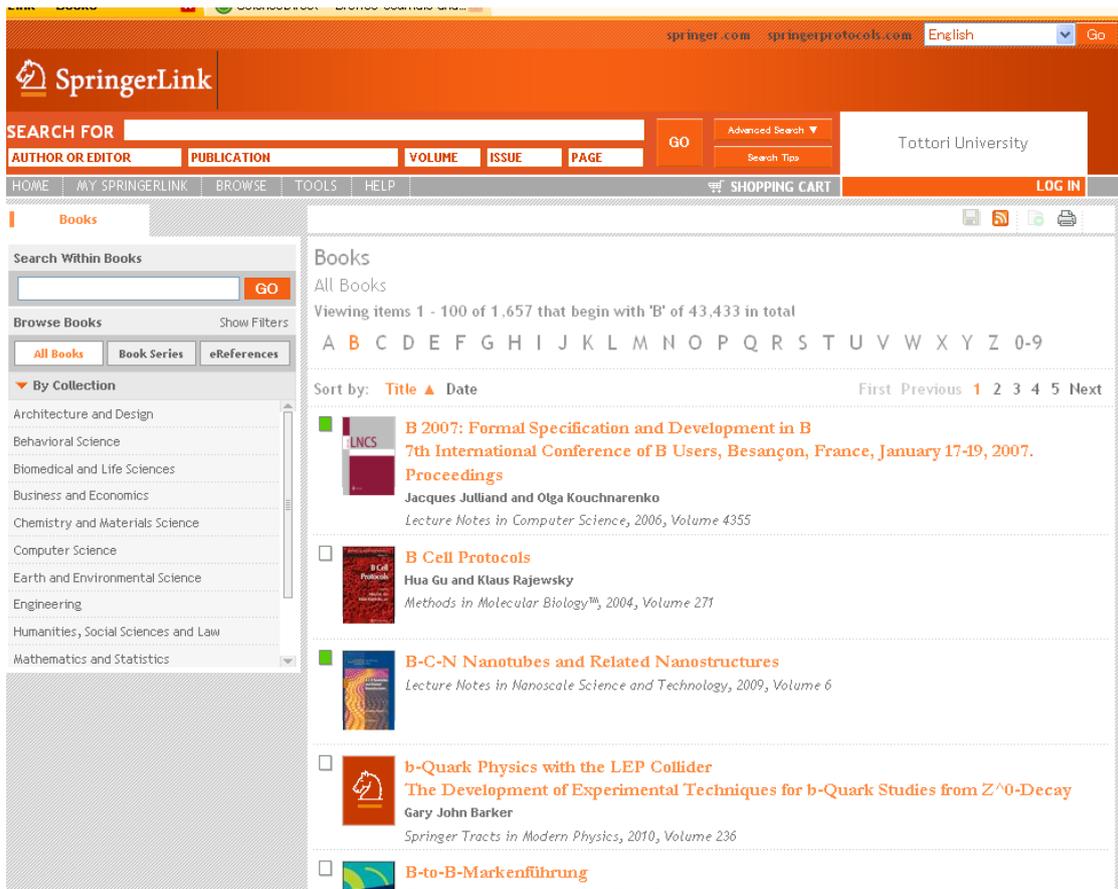


## 「電子書籍」について

昨年から日本でも急速に盛り上がってきた電子書籍（電子ブック、E-book などいろいろ呼び名/商品名がありますが、ここでは「電子書籍」とします）ですが、電子書籍を「書籍（単行本）の一部もしくは全部が電子ファイルの形で利用できる物」とするなら、本学でもすでに利用できるものがありますのでご紹介いたします。

まず一つ目は電子ジャーナルサイトから利用するタイプのものです。今のところは、SpringerLink と ScienceDirect 掲載の電子書籍の一部が利用可能になっています。電子ジャーナルでは論文一本ごとのファイルでしたが、電子書籍では通常一冊の本が章や節ごとに分割された pdf ファイルになっています。また図書館の OPAC でも書名や著者名で検索可能で、各書籍へのリンクもはってあります。

SpringerLink の画面例（緑のマークがついているものが閲覧可能）



SpringerLink トップページ: <http://www.springerlink.com/>

ScienceDirect トップページ: <http://www.sciencedirect.com/>

なお、電子ジャーナルと同じように大量あるいは機械的なダウンロードは禁じられています。

もう一つは NetLibrary というサイトです。点数はまだ少ないですが日本語の書籍も利用可能で、こちらも本文は pdf ファイルです。OPAC から検索可能で、各書籍へのリンクもあります。注意していただくことは、一冊を一人が占有して利用する形態だということです。ある資料を誰かが利用している間は他の人はその資料を利用できなくなります。また閲覧や印刷する量に決まった制限がかけられています。

## NetLibrary 画面例



ご案内ページ : <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/ebook/NetLibrary.pdf>

本文自体を検索できるようになっているので、必要な部分を探して閲覧したり印刷したりするなどして、上手に利用してください。

図書館情報課 学術情報担当

TEL:0857-31-5673 (内 7060) FAX:0857-28-6346

mail:[ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:ac-gakuju@adm.tottori-u.ac.jp)

(学術情報担当 金子尚登)

## 鳥取大学附属図書館委員会委員名簿

平成23年4月

所 属	職 名	氏 名	任 期
附属図書館	館 長	矢部敏昭	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31
医学図書館	医学図書館長	成瀬一郎	平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31
地域学部	教 授	足立和美	平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31
〃	准教授	溝口達也	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31
医 学 部	教 授	前田隆子	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31
工学研究科	准教授	大観光徳	平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31
〃	准教授	小柳淳二	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31
農 学 部	准教授	石原 亨	平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31
〃	准教授	芳賀弘和	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31
連合農学研究科	教 授	東 政明	平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31
生命機能研究支援センター	准教授	森本 稔	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31
乾燥地研究センター	教 授	井上光弘	平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31
大学教育支援機構	准教授	松本雅弘	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31
総合メディア基盤センター	准教授	井上 仁	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31
産学・地域連携推進機構	准教授	清水克彦	平 22. 4. 1 ~ 24. 3. 31
医学図書館	准教授	齊藤源顕	平 23. 4. 1 ~ 25. 3. 31

## トピックス

### 地域貢献事業 わが図書館のお宝展および

#### 講演会「18・19世紀のイギリスの漫画—現物を見ながら—」

鳥取大学附属図書館では、平成22年度地域貢献事業として12月4日から12月19日までの間「鳥取県内図書館のお宝発掘事業—我が図書館の自慢の資料展—」を鳥取県立図書館特別展示室にて開催しました。県内の公共図書館（11館）と協力して各図書館の自慢の資料を一同に集め、古文書や書簡、ブロンズ像など、いろいろなジャンルの特色ある資料を展示しました。また、12月11日（土曜日）には鳥取県立図書館大研修室で、特別講演として、青山学院大学文学部の富山太佳夫教授による「18・19世紀のイギリスの漫画—現物を見ながら—」と題した講演会を開催しました。富山教授は、19世紀のイギリスの風刺漫画雑誌「パンチ」の漫画などを基に、その当時の時代背景や出来事について説明され、この漫画は腹を抱えて笑えるようなものではなく、当時の人種差別問題など社会的なメッセージがこめられていることを講演されました。18・19世紀当時の貴重な図書資料も持参され、参加者も直接手にとって見ることができ、目を丸くしながら聞き入っていました。参加者のアンケートでは、「人間やモノの分類が差別へとつながる時に、漫画やさし絵のもっていた社会的役割が実感できました。」「チラシはりつけ前提の本というのに驚きました。（見かけ上）エンターテイメントでも広範囲なバックグラウンドがあるのにわくわくしました。」「イギリスの風刺漫画の見方が少しだけわかりおもしろかった。知識豊富な先生の講演楽しく聴かせいただきました。」などとても素晴らしい講演会であったとの感想が多く寄せられました。

鳥取大学附属図書館では、鳥取県内の図書館との連携事業としてこのような講演会、展示会を毎年実施していますが、鳥取県内の図書館の結束がさらに強固になってきていることを実感しました。今後も協力して地域に貢献する事業を展開していきます。



展示会の様子



講演会の様子

## 開館時間の拡充

附属図書館では、利用者の皆様からのご要望が多かった、開館時間の拡充について、平成22年10月1日より試行を実施してきましたが、平成23年4月1日より本格実施いたしますので、どうぞご利用ください。

### ★開館時間★

#### 中央図書館

	授業期	休業期
平日	8:40～22:00	8:40～17:00
土・日・休日	9:00～17:00（試験期間中は9:00～22:00）	9:00～17:00（8月は休館）

#### 医学図書館

	授業期	休業期
平日	8:40～22:00	8:40～17:00
土・日・休日	9:00～17:00（試験期間中は9:00～22:00）	9:00～17:00（3、8月は休館）

## ブックハンティング

図書館では、学生による選書（ブックハンティング）を実施しました。中央図書館、医学図書館それぞれ書店に出向き、2回行いました。

- ・図書館に置いてほしい本
- ・勉強や研究に役立つような本
- ・読みたい本、皆におすすめしたい本

などを、直接、本屋さんで選んでいただきました。

選んでいただいた本には、紹介文も付けて図書館内に展示しています。



今年もやるので、  
参加してね

### 鳥取大学附属図書館報 第117号（2011年4月）

【編集・発行】 国立大学法人 鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 【TEL】(0857)31-6728 【FAX】(0857)28-6346

【E-Mail】[tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp](mailto:tosyokan-m@adm.tottori-u.ac.jp) 【ホームページ】<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 国立大学法人 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

